

父母連ニュース

草加市保育園父母会連合会 機関紙

2010年度 第6号/2010年12月4日発行

発行責任者:高山 943-2616 ・ 中島 932-3447

内容：市長候補者アンケート報告



市長選候補者アンケート報告

11月に、新議会により木下元市長の不信任案が可決され、市長が失職いたしました。そのため、12月12日（日）に草加市長選挙が行われます。父母連では、市長候補者に子育て支援に関するアンケートを行いましたので報告いたします。

田中かずあき氏 回答

1. 草加子育ての課題について

草加市の子育ての課題につきましては、仕事と子育ての両立、子育てにかかる経済負担、子育ての孤立化、児童虐待、不審者の出没などと考えております。

特に、具体的な施策で申し上げますと待機児童の解消は重要な課題であります。

併せて、保育園の完全給食や延長保育の全園実施など保育サービスの充実、公立保育園での0歳所保育の実施なども課題と考えております。

2. 「子ども手当」への賛否とその活用について

子ども手当については、厳しい経済情勢の下で、子育て世代にとって大変ありがたいという声も聞いている一方で、財源確保の見通しが立たない中で、現状では自治体にその負担が課せられている手当を全額国費とし、市負担分を保育所運営費に廻すことによって、より多くの保育所整備が可能となります。手当そのものは否定しませんが、本当の意味での子育て施策に使ってもらえる制度設計にすべきです。

3. 働く子育て世帯・世代へのメッセージ

保育園父母会連合会会員の皆様には、働きながら子育てをしていることに対しまして、心から敬意を表させていただきます。

日頃、子育てに関しましては、子育ての出費がかさむこと、子どもの躰に関すること、仕事や自分のやりたいことなどができないことなど、日常、悩んだり、気になったりされていることと存じます。子どもは、皆様の鎚（かすがい）でもあり、時代を担う宝でもありますので、私も応援いたしますので、子どもたちを健やかに育てていただきたいと思います。

4. その他

子どもたちが健やかに生き生きと、そして夢と希望が持てる社会の実現が必要です。

しかし、現在は前述の課題などにより子育てや子どもに悪影響を及ぼしています。

このことから子育て支援策の充実を図るとともに、子どもの視点に立った子育て支援策を創設するなどして、草加の宝である子どもたちが「このまちで育ってよかった、このまちに住み続けたい」とおもっていただけるまちづくりに取り組んでまいります。

木下博信氏 回答

1. 草加の子育ての課題について

- ・ 保育園、児童クラブの待機児童解消
- ・ 病児病後児保育
- ・ 延長保育の拡大実施
- ・ 核家族化が進む中での子育て支援（つどいの広場の増設他の支援策）
- ・ 身近な公園の増設
- ・ 信頼される公教育の実現

2. 子供手当への賛否と活用

現状案には反対。子育て支援策が充足しきっていないなかで、ただ現金だけを支給することではだめです。草加では52億円（市の予算全体の約1割！）が国からやってきて、そのまま各家庭に支給されています。このうち一割でも、子育て支援策に限定して市の裁量で使うことが出来れば、様々な1の課題が解決できる。

私は、この考え方を全国市長会の森会長に伝えるとともに、全国青年市長会や、現場から国を変える首長の会 (<http://www.genba-kubityo.com/>) において、有志首長とともに国や政党に対して提言・要望し続けてきました。

その結果として、国が一部を子育て支援策に充当可能にすることを検討し始めています。しかし、これもまだ確定案ではなく、議論は揺れています。これからも継続して国に働きかけ続け、その実現をはかっていく必要があります。

3. 働く子育て世代へのメッセージ + 4. 自由意見

この国の労働環境は、子育てしながら働くことを前提としていません。根本的には、ここを変えなければなりません。しかも、相変わらず母親が育てるものという認識が強く、共に子育てに取り組むという社会認識も十分ではありません。

我が家は、たまたま父が同居しているので、二人そろって帰宅時間が遅いフルタイム労働でも、何とか小4まで育てて来ていますが、夫婦のみで草加にやってきて育てていくことは、大変な負担を強いられる困難な事だと感じています。

だからこそ17年前、議員になってすぐに、同期の斉藤幸子議員と全保育園を回ったり、児童クラブを学校の転用可能教室に入れるように働きかけたりという活動を始めました。そして、市長になってからは、積極的に保育園も増築して建て替え、児童クラブの専用施設化にも取り組んできました。

こうして、現場で出来ることを、限られた財源の中で、何とか捻出して一步一步進めて参りました。この姿勢はこれからも変わることはありません。

そして、個人としても、政治にかかわるものとしても、子育てしながら働ける労働環境を実現していくために、現場から発言と行動を続けて参ります。

あきらめたら何も変わりません。これまでも、民間児童クラブの時代から、自分たちの力で対応しつつも、制度改正に向けて尽力し続けてきた先輩達のおかげで、今の環境まで変化してきました。理想の社会実現に向け、現実を直視し対応しつつも、活動を続けていくことが不可欠です。

ぜひ、先輩達がそうであったように、我々も、次の世代のために進み続けていきたいと思います！